大盛堂書店2F通信

Vol.59

今号は 鈴木さん・渡辺さん 対談の注釈のみの掲載です。ぜひ本編と引き合わせてご一読を。

山本

東京都渋谷区宇田川町22-1
TEL 03-5784-4900

※「版元ドットコム」WEBサイトでも閲覧できます!

対談
「背伸びし続ける覚悟。　進駸堂中久喜本店・鈴木店長とミシマ社・渡辺さんに話を聞いた。」その⑤

鈴木毅さんプロフィール

進駸堂中久喜本店・店長。栃木県小山市郊外のロードサイドに立地し、店内のPOPを多用した書籍・文房具の独自の展開は、広く書店出版業界に刺激を与え続けている。また、玄人はだしのイラストや、「WEB本の雑誌」などに書かれている書評の質の高さも見逃すことはできない。「読書は外文、映画は洋画、釣りは洋式毛バリの海外かぶれ。世間が振り向かないものを専門にして生き残りをかけるニッチ至上主義者。洋式毛バリ釣りの専門誌「月刊 FlyFisher」(つり人社)にてなぜか本と映画のコラムを連載してます。」(WEB本の雑誌「横丁カフェ」プロフィールより転載)

渡辺佑一さんプロフィール

今年10周年を迎える出版社・ミシマ社の最古参兵。営業チーム所属。ひとり営業時代から「リーダー」を名乗っている。「じみち」をモットーに直取引をメインとした流通を確立し、取次会社出身なのにようやるわ、と一部書店員からカルト的な人気を博す。もちろん鈴木さんとは昵懇の仲であり、昨年秋に発売された全国の書店を紹介したムック「本屋へ行こう!!」(洋泉社)では、渡辺さん執筆による進駸堂中久喜本店の紹介記事が掲載。S県にある某書店チェーンのT社長をもってして「あのなかで唯一行きたくなったお店だわ」と言わしめた。特技はビートたけしのモノマネをしている松村邦洋のモノマネ。

(イラストは三点とも鈴木毅さん画)

＊注釈

(各注釈の筆者は各顔イラストの者)

(大盛堂・山本)【＊11】大喜利→寄席でも行われるが、ご存じ「笑点」の名物コーナー。先代三遊亭圓楽司会の時代は、現在司会を務める桂歌丸と林家木久蔵(現・木久扇)との遣り取りが人気を博す。

＊12「カメラ日和」→(株)第一プログレスから刊行されているカメラ雑誌。

*13 銀塩カメラ→従来のフィルム、または感光板を使用して撮影するカメラのこと。

*14オリンパスＰＥＮ→『オリンパスＰＥＮ D3』1965年生産。日本で代表的なオリンパスのハーフサイズカメラ。こちらのモデルは、1965年に生産された、ペンシリーズの中でも高級路線のカメラです。単独露出計が内蔵され、絞りとシャッタースピードを選ぶことができる。当時プロのサブカメラとして使われた本格派。本格的にカメラ操作したいという女の子におすすめのモデルです。(進駸堂POPより)

*15 ツアイスイコンコンチナ→1952年発売。　西ドイツ製撮影時にファインダー横の扉を庇のように上げて露出を合わせる工程やすっきりしたボディで今なお多くの人を惹きつける「CONTINA」。軍艦部にある〇と--の追針式の窓で露出を数値化し、その数値をレンズ周りで合わせると絞り値とシャッタースピードの組み合わせが決まるので、どちらも容易に優先させることができる。(進駸堂POPより)

＊16 ポラロイドのアルファ１→『ポラロイド　SX-70 ALPHA1』1977年8月4日製造。基本的な性能は、FIRSTMODELから変わりませんが、大きく変化したのは、底面に三脚穴が開き、背面にストラップがつけられるようなりました。
また、このモデルからボディと革の素材、さらにシャッターボタン(青色のものも登場!)と、いろいろなバリエーションが増え、一部販売店限定モデルなどのレアな商品もあります。ちなみに、ALPHAとALPHA1の名称の違いは、生産された時期が先か後の違いだけで、仕様はとくに変わっていません。(進駸堂POPより)

＊17ノリの良さそうな千葉の→出版書店業界で「千葉」というとノリのよい企画や会が多数ある。例えば千葉県内の書店有志による「酒飲み書店員大賞」や、千葉に関係がある出版書店業界による会合「千葉会」を挙げることができる。

＊18 千葉だけにノリがいい→千葉県千葉市は全国でも有数の海苔の消費地である。渡辺さん一流のダブルミーイングギャグ。

＊19 その販売店さん→そのお店は千葉県津田沼市で営業されている。（現在は通信販売のみ）

＊20 秘打かよ→秘打とは漫画『ドカベン』でおなじみ殿間の代名詞ともいえる奇想天外な打法を指す。「白鳥の湖」のほか「ポテトチップ」や「黒田節」などがある。

＊21 ゲームの FIFA→ちなみにゲーム機は、『XBOX360』。「負けハード」と呼ばれることもあるが鈴木さんは本機をこよなく愛している。

幼少期よりゲームはセガ一筋。『XBOX360』と『XBOX ONE』の最新機種両機を愛用してます。ちなみ XBOX は 3 台目です。

＊22 うちには酒もないのにねー。→鈴木さんはお酒が飲めない。僕が遊びにいくと「僕のためだけ」に、夜のコーヒーを淹れてくれる。まさしく、至福のひと時である。

＊23 新刊『わたしのじてんしゃ』『関西かくし味』もよろしくお願いします→ミシマ社３月新刊。前書は益田ミリ（作）／ 平澤一平（絵）の『はやくはやくっていわないで』（産経児童出版文化賞受賞）、『だいじなだいじなぼくのはこ』『ネコリンピック』のコンビによる絵本第 4 弾である（読者対象 0 歳～100 歳超。はってあそべるオリジナルシール付）、後書はノンフィクションライター・井上理津子著の関西の地元に愛される「50 店」を訪ね歩いた、朝日新聞大阪本社版の人気連載「味な人」の書籍化。（参照引用：ミシマ社ホームページ）

＊24「ムー」→学研プラスで発行されている国内トップクラスのクオリティマガジン。本誌で紹介されている動画を youtube で観ながら読むのが最近の作法。

＊25「ムー民広場」→「ムー」の読者投稿欄。編集部の読者にかける温かい言葉が胸に沁みる。

＊26「情報外情報」→東京・神楽坂で校正校閲の会社「鴎来堂」および街の本屋「かもめブックス」を営む柳下恭平さんが言っていた言葉。最近個人的に愛用しこの発言をすると、相手の方から「渡辺くん、さすがに目の付け所が違うねー」と感嘆される。

＊27 イエズス会→「僕らは軽く考えてますけどね、イエズス会がなぜ日本にやってきたのかについてはもっと興味を持ったほうがいいです。だってどう考えても（以下略）」としばらく熱弁を振るうと、二人は激しく同意してくれた（はず）。まずは最初の一冊として、『みんな彗星を見ていた私的キリシタン探訪記』（星野博美著　文藝春秋）が面白いのでおすすめ。ぜひご一読を。

＊28『人間の顔は食べづらい』→2014 年に出版された白井智之作によるウイルス伝播による安全な食糧確保のため、人間のクローンを飼育し食用にするという SF ミステリー。発売時、各界で話題を呼んだ。

＊29 赤羽の山本益博→渡辺さんの酒席においてのホームグラウンドは、近年勤労者のオアシスとして注目されている東京都北区赤羽。盃を傾けながら肴を論評する様子は、料理評論家としても知られている山本氏を彷彿させる、と周囲は評している。

＊30 たけしウオッチャー→全国の業界関係者による鈴木さんをほっておかない人々の総称。別名「NSK」（日本すずきたけし協会）。例えば神奈川県平塚市のとある書店店長や、某大手企業名と同じ苗字を持つとある出版営業マンの名前が挙がる。だが最近有望株として以前本フリペにも登場して頂き、つい先日鈴木邸にも宿泊した、静岡県浜松市のとある書店店長も名を売り出している。

＊31 ワタナベ節→渡辺さんは普段の何気ない会話のなかからでも「物語」を産み出せるという稀有な方。別名「悠久の吟遊詩人」。

＊32 いや、だって、今日だってそうですよ。この会場は、カーナビではなく鈴木さんが己の鼻を利かせたハーナビによって見つけることができた、ということもあるわけですよ。まるでトリュフを探し出す豚みたいな。→なぜか埼玉県北部で対談を、と鈴木さんの愛車に乗り県道を流していたところ、鈴木さんによって見つけることができたとある台湾料理店。食は埼玉にあり。ちなみにフランスでは野生のトリュフを探す際、雌豚に探させるらしい。

＊33 でも、バイクとか車で旅に出てもガイドブック持たないからね。行き当たりバッタリは面白いよ。→次号にて詳述。

＊34 売上スリップ→書籍にはさんである短冊状の書籍情報が記入してある紙片のこと。POS データが普及していない時代は、販売後そのスリップを確認して注文管理等を行っていたが、現在でも色々な面で活用している書店員は多い。

＊35「みんなのミシマガジン」→毎日更新している弊社のウェブ雑誌。本屋さん関係の記事も充実。広告を一切入れず、サポーター制度で運営している。現在でも募集中ですので、よろしければ弊社ホームページをご覧ください。

＊36 でも企画書通るかわからないんで（笑）→後日、本当に企画書を上げたが、残念ながらボツになってしまった。いずれまたリベンジの予定。ぜひこの対談を読み通した皆さまには、弊社宛に「たけし店長のコラムをぜひ読みたい！」とお手紙・メール・テレパシー、さらに僕宛ての励ましを付け加えて頂ければ、なお効果的なのでよろしくお願いします。

（次号に続く）